

(様式3 - 2)

熊本県英語教育改善プラン

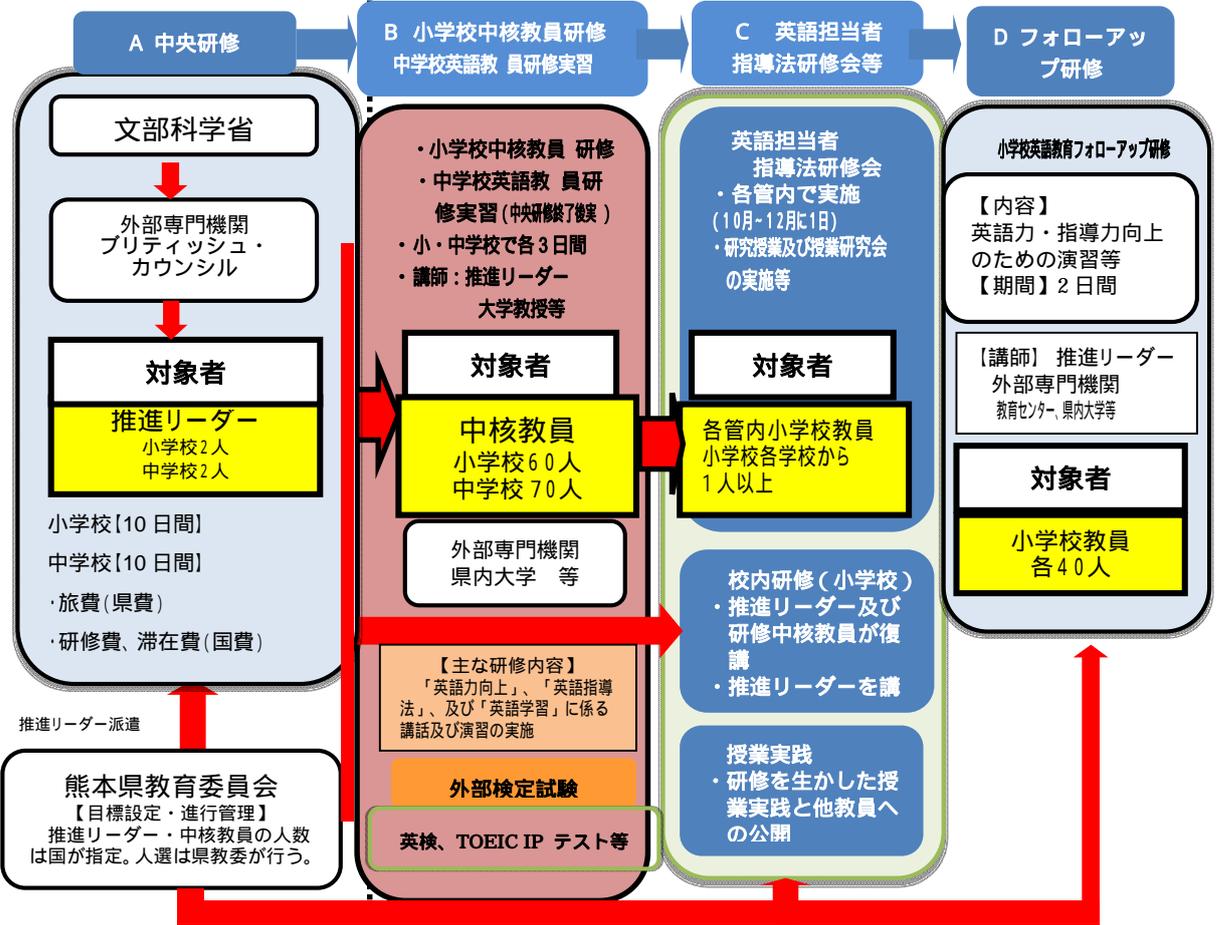
実施内容

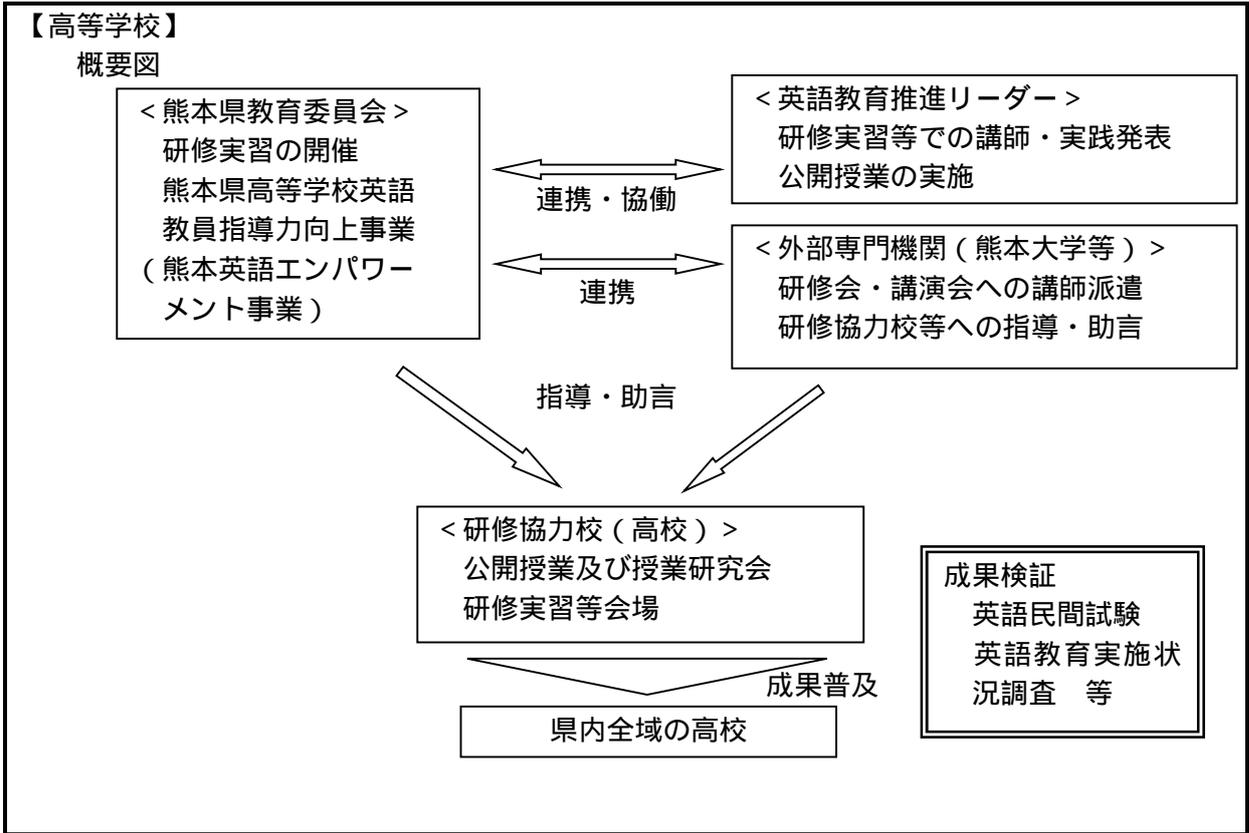
(1) 研修体制の概要

【小中学校】

- 平成30年度の中央研修を修了した英語教育推進リーダー(以下「推進リーダー」という)が、外部専門機関と連携しながら、小学校は中核教員研修(60人)において11時間(12時間中)、中学校は英語教員研修実習(70人)において14時間、研修の講師を務める。
- 小学校研修実習修了者は、各管内で実施する「英語担当者指導法研修会」において、研修内容を生かした授業実践を紹介し、管内で研修内容の普及・啓発を図る。
- 中学校の推進リーダー及び研修実習修了者は、各勤務校で計画的に校内研修を行い、研修成果を自校の教員と共有する。また、研修実習修了者は、自身の英語力向上について、その成果を外部検定試験の受験結果で検証するよう努める。
- 小学校英語教育フォローアップ研修において、推進リーダー等が講師を務め、小学校教員(各40人×2回、計80人)に対して演習等を行い、基本的な教室英語等の習得を図る。
- 推進リーダーの所属する学校の中から、小中各1校を研修協力校として選定し、外部専門機関との連携のもと中央研修の内容を生かして公開授業及び授業研究会を行う。

概要図





(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

【小中学校】

公立中学校の第3学年に所属している生徒のうち、求められる英語力の指標である英検3級以上を取得しているかそれに相当する英語力を有すると思われる生徒の割合は40.8%(平成30年12月現在)で、全国平均(30年度)の42.6%を下回っている。

また、英語担当教員のうち求められる英語力の指標である英検準1級以上等を所有する教員の割合は31.8%(平成30年12月現在)で、全国平均(30年度)の36.2%を下回っている。

一方、授業における英語担当教員の英語使用状況が50%以上である割合は86.4%で、全国平均(平成30年度)の74.5%を上回っている。

<課題>

公立中学校第3学年の生徒のうち、求められる英語力を有する生徒の割合は40.8%で、全国平均42.6%に達していないこと。

英語担当教員のうち求められる英語力を所有する教員の割合は31.8%で、全国平均の36.2%を4.4ポイント下回っていること。

こうした状況を踏まえ、平成31年度の到達目標を次のように設定し、目標達成に向けた取組を行う。

<H30 現状値及び2022までの目標値>

中学校

指標内容	2018		2019	2020	2021	2022
	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値	目標値
求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	33.0	31.8	35.0	40.0	45.0	50.0
求められる英語力を有する生徒の割合(%)	40.0	40.8	45.0	47.0	48.5	50.0
学習到達目標の整備状況	設定(%)	100.0	99.2	100.0	100.0	100.0
	公表(%)	50.0	25.6	35.0	40.0	45.0
	達成状況の把握(%)	70.0	63.6	70.0	73.0	77.0
生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	85.0	86.8	88.0	90.0	93.0	95.0

パフォーマンステストの実施状況	スピーキング	4.0	3.3	4.0	4.5	5.0	6.0
	ライティング	3.0	2.5	3.0	4.5	5.0	6.0
英語担当教員の授業における英語使用状況(%)		85.0	86.4	88.0	90.0	93.0	95.0
英語担当教員に対する研修実施回数		3	4	4	4	4	4
研修受講者数		210	471	475	480	480	480

小学校

指標内容	2018		2019	2020	2021	2022
	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値	目標値
学習到達目標の整備状況	設定(%)			50.0	75.0	100.0
	公表(%)			35.0	40.0	45.0
	達成状況の把握(%)			73.0	77.0	80.0
小学校教員に対する研修実施回数	7	7	7	7	7	7
研修受講者数	340	339	340	340	340	340

目標値達成に向けた具体的な手立ては、次の通りである。

- 1 「教員の英語力向上」
 中学校英語教員研修実習に参加する 70 人は、TOEIC IP テストか英検準 1 級以上を積極的に受験し、英語力の向上に努める。
 また、県教委主催の各研修会等で英語力を更に向上させることの必要性を認識させ、英検等の外部検定試験の受験を促し、平成 31 年度の達成目標(33.0%)を目指す。
- 2 「生徒の英語力向上」
 中学校英語教員研修実習をはじめ県教委主催の各研修会等で、本県の授業づくり上の課題に基づいた研修を行い、教師の指導力の向上を図ることで、生徒の英語力を向上させる。また、生徒に自らの英語力向上の意欲を高め、到達度を把握させるために CAN DO リストの活用を推進するとともに、英検等の外部検定試験の受験を総合的に支援し、平成 31 年度の達成目標(45.0%)を目指す。
- 3 「CAN DO リストの活用」
 中学校英語教員研修実習をはじめ県教委主催の各研修会等で、「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標の公表の意義や、パフォーマンス・テスト、単元目標、本時の目標との関連を具体的に示す。今年度作成した「熊本の中学生はこれだけは言える」という文例を 7 つの題材で学年ごとに示した「KUMAMOTO English Standard」の活用を推進して授業改善を促す。
- 4 「生徒の英語による言語活動時間の割合」
 各教育事務所が行う「学校訪問」において、本県で作成した「英語授業づくりのポイント」を活用する。特に、本時の目標及び単元目標の達成に向けた系統的・段階的な言語活動の設定を徹底することにより、平成 31 年度の達成目標(88.0%)を目指す。
- 5 「英語教員の英語使用状況」
 中学校英語教員研修実習をはじめ県教委主催の各県集会等で、英語力・指導力の向上を図り、より効果的な英語使用を推進する。目指すべき授業のポイントを具体的に示して授業改善に取り組み、平成 31 年度の目標達成(88.0%)を目指す。
 毎年「英語教育実施状況調査」及び「県学力調査」を実施することで、教員の英語指導力を含めて年次ごとの変容を把握していく。また、「英語授業づくりのポイント」を踏まえた授業の徹底を図り、年間複数回チェックの機会を設けて向上を目指すと同時に、達成状況を把握して検証する。
 生徒の英語力については、各学校で外部検定を活用した目標設定を行い、PDCA サイクルによる取組により目標達成をめざす。

【高等学校】

県立高校の英語担当教員のうち、求められる英語力の指標である英検準 1 級以上等を所有する教

員の割合は88.2%（平成30年12月1日現在）で、前年度から1.5ポイント伸び、着実に上昇している。その一方で、「英語担当教員の授業における英語使用状況」や「生徒の授業における英語による言語活動時間の割合」等の指標は前年度からの伸びが見られず、本事業を活用した研修の強化を図っていく必要がある。

< H30 現状値及び 2022 までの目標値 >

「英語教育実施状況調査」における指標（様式10）目標管理書から抜粋

No.	指標内容	2018	2019	2020	2021	2022	
		達成値	目標値	目標値	目標値	目標値	
	求められる英語力を有する担当教員の割合	88.2	90	91	92	93	
	求められる英語力を有する生徒の割合	38.3	50	50	50	50	
	学習到達目標の整備状況	設定	100	100	100	100	
		公表	44.7	70	80	90	100
		達成把握	70.6	75	80	90	100
	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合	52.0	75	75	75	75	
	英語担当教員の授業における英語使用状況	57.5	70	75	80	85	

目標値達成に向けた具体的な手立ては、次の通りである。

「求められる英語力を有する担当教員の割合」

国の示す目標は達成しているが、平成31年度も引き続き指導力向上のために教員自身の自己研鑽の必要性があることを強調し、外部検定試験受験を促す。また、CEFR B2 レベル以上の資格未取得の教員を中心とした指導力向上研修も計画している。12月の英語教育実施状況調査に合わせ、英語教員個々の取得状況について調査する。

「求められる英語力を有する生徒の割合」

県独自のスピーキングテストの各学校でのさらなる活用を促すなどして、生徒の外部検定試験受験につなげる。

「学習到達目標の整備状況」

学習到達目標達成状況の把握における各校での具体的な取組について、教育課程研究協議会等で情報共有を図る。

「生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 50%以上」

研修実習や本事業による講演会や研修会により、英語による言語活動の具体的な方法の普及に努める。一方で、学校訪問により英語授業を視察し、適宜、指導助言を行う。

「英語担当教員の授業における英語使用状況 50%以上」

の指標と連動するため、手立てについてもと同様とする。授業において教員が終始英語を話す必要はなく、英語を使う主体はあくまで生徒であることを、各研修や学校訪問による指導を通じて教員に強く認識させる。

さらに、研修実習の参加教員については、自発的な自己研鑽を促すために「目標設定・進行管理シート」（別紙1）を使って目標を設定させ、県教育委員会に提出させる。

（3）研修の体系と内容の具体

【小中学校】

1 研修実習（小学校：小学校中核教員研修、中学校：中学校英語教員研修実習）

期 間：3日間（小学校12時間、中学校14時間の演習）

対象者：小学校教員60人、中学校英語教員70人

各管内（10管内）に人数を割り振り、受講者を決定

内 容：中央研修で推進リーダーが習得した教授法等を研修参加教員が習得する。中学校に

においては、平成 30 年度から参加者を 70 人に増やしているため、過年度の推進リーダー 1 人を加えて計 3 人の講師による研修実習を行う。

2 英語担当者指導法研修会（1 日）

対象者：各管内 各小学校から 1 人

内 容：中核教員研修参加者が研修内容を生かした研究授業を実施するとともに授業実践を紹介する。新教材の効果的な使い方についての講話や Small Talk の演習などにより、英語力・指導力を高めるための研修を行う。

3 校内研修や公開授業

対象者：全職員（中学校においては英語担当教員の場合もあり）

内 容：研修等で学んだことについて公開授業などを含めた実践研究を行う。

小学校においては、全学校・全職員で行うことを基本とする。

4 小学校英語教育フォローアップ研修（2 日）

対象者：各 40 人（計 80 人）

各管内（10 管内）に人数を割り振り、参加者を決定

内 容：県立教育センター指導主事や推進リーダーによる演習等をとおして、英語力・指導力を高める。

5 研修協力校における実践及び公開授業

対象者：校内職員及び公開授業参加教員（県内全域）

内 容：P D C A サイクルによる実践により、生徒の意欲面や英語力における定性的・定量的なデータによる変容を検証すると同時に、公開授業においてはその実践の成果を授業の中に反映させ、参加者へ啓発することで、県下への普及を図る。

以上の研修の評価方法として、研修参加教員対象のアンケート、研修実施後の推進リーダーとの振り返り及び年度末の報告書等をもとに評価を行い、意識や指導力の向上の変容について把握する。

推進リーダーの役割

研修実習の実施【3 日間 / 年】

域内研修の実施【1 日以上 / 年】

小学校英語教育フォローアップ研修の実施【2 日間 / 年】

研修協力校における公開授業【1 日間 / 年】

その他の研修講師

研修実習修了者の役割

英語担当者指導法研修会（小学校）での復講【1 日間 / 年】

校内研修の実施【適宜 / 年】 小学校は 1 日以上 / 年

中学校英語教員における外部検定試験（TOEIC 等）の受験【1 回 / 年】

【高等学校】

< 熊本県英語教員指導力向上事業（熊本英語エンパワーメント事業） >

1 英語教育推進リーダーによる指導力向上研修（研修実習、3 日間）

対象者：県立高校英語教員 30 人程度

目 的：中央研修で推進リーダーが習得した教授法を研修参加教員対象に伝達。

内 容：第 1 回及び第 2 回は、推進リーダーによる講義を行う。第 3 回は講義に加え、研修参加教員が各勤務校で改善を図った教材等を持ち寄り、フォローアップを行う。

研修参加教員は、各勤務校で公開授業を行い、小中を含む近隣校にも案内する。

実施内容について、報告書（別紙２）の提出を求める。

2 外部講師による指導力向上研修会（年３回程度）

対象者：県立高校全英語教員（希望者、各回２０名程度）

目的：言語活動やパフォーマンス評価の事例を紹介し、実践を促す

内容：研修協力校を会場に、具体例を多く取り入れたワークショップ形式で開催

3 指導力向上講演会（年１回）

対象者：県立高校英語教員（全県立高校から１名以上、８０名程度）

目的：新学習指導要領で求められる英語授業についての周知

内容：理論的な内容を含め、各校の授業改善に資するもの

4 指導力向上授業研究会（年２回）

対象者：県立高校英語教員（希望者、各回２０名程度）

目的：新学習指導要領で求められる英語授業の実践

内容：大学教授等を助言者とし、研修協力校での公開授業を基に研究協議を行う

5 外部検定受験

対象者：県立高校英語教員（希望者）

目的：指導力向上研修の成果を測る

内容：CEFR B2 レベル以上未取得者を中心に、TOEIC IP テストを県が実施する。

6 外国語指導助手指導力等向上研修（２日間）

対象者：外国語指導助手及び小中高の英語（外国語活動）担当教員（高校担当３５名程度）

目的：外国語指導助手(ALT)及び日本人英語担当者(JTE)のチーム・ティーチングに係る指導力の向上を図る。

内容：外部講師による講演、外国語指導助手・日本人担当教員によるワークショップ等

以上の研修の検証として、研修毎のアンケートや研修参加教員対象の報告書及び「管理シート」を基に、教員の意識や指導力の変容について把握する。

（４）年間事業計画 上段：小中学校 下段：高等学校

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	英語担当指導主事会（所長・指導課長・指導主事研修会時） 本事業の説明及び共通理解 H31 中核教員研修（小学校）及び研修実習（中学校）講師決定	
5月	研修実習に向けた推進リーダーによる事前打ち合わせ	
	研修実習参加教員選定	
6月	小学校中核教員研修（第１回） 中学校英語教員研修実習（第１回）	
	指導力向上授業研究会	県内大学教授

7月	英語担当指導主事会（所長・指導課長・指導主事研修会時） 中核教員研修（小学校）及び研修実習（中学校）進捗状況	
	研修実習 外部講師による指導力向上研修	県内外大学教授
8月	小学校中核教員研修（第2～3回） 中学校英語教員研修実習（第2～3回）	
	研修実習 教育課程研究協議会	
9月	各管内（10管内）での英語担当者指導法研修会（9～12月） 研究授業、研修実習参加者による復講等	
	外部講師による指導力向上研修	県外大学教授
10月	各管内（10管内）での英語担当者指導法研修会（9～12月） 研究授業、研修実習参加者による復講等	
	研修実習 指導力向上授業研究会	県内大学教授
11月	H30 推進リーダー（小学校）の派遣＜第2回＞ 各管内（10管内）での英語担当者指導法研修会（9～12月） 研究授業、研修実習参加者による復講等 第1，2回小学校英語教育フォローアップ研修 外部検定試験受験（TOEIC I P）会場：県庁会議室 公開授業（中学校研修協力校） 会場：山鹿市立鹿本中学校	
	指導力向上講演会 外部検定試験受験	県外大学教授
12月	英語教育実施状況調査の実施 各管内（10管内）での英語担当者指導法研修会（9～12月） 研究授業、研修実習参加者による説明等 公開授業（小学校研修協力校） 会場：甲佐町立白旗小学校	
	外国語指導助手指導力等向上研修	県内大学教授
1月	本年度取組の反省、次年度への志向 外部検定試験受験（TOEIC I P） 会場：県庁会議室	
2月	本年度取組の反省、次年度への志向	
	外部講師による指導力向上研修	県外大学教授
3月	本年度取組の反省、次年度への志向	
	「目標設定・進行管理シート」及び「校内研修実施報告書」 の提出完了（研修参加教員）	

【その他の取組】

「中学校英語検定チャレンジ事業」の一環として、中学校英語担当教員全員研修を実施。

